

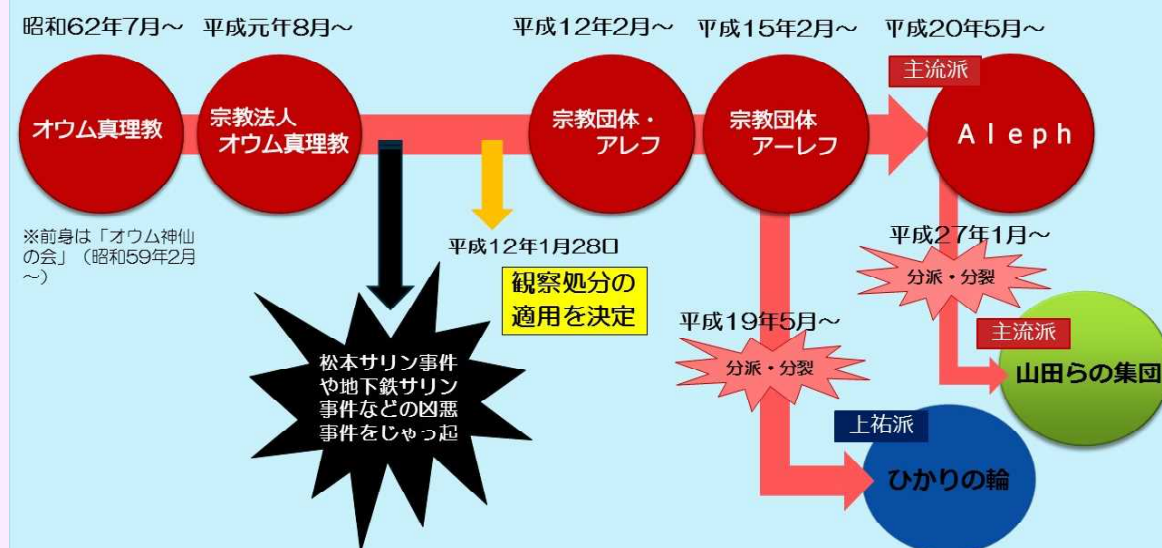
# オウム真理教は現在

## 1 オウム真理教の変遷や組織概要

いわゆるオウム真理教(団体)は、現在、“麻原絶対”を明示する「Aleph」、「山田らの集団」(以上、主流派)及び麻原の影響力を払拭したかのように装う「ひかりの輪」(上祐派)を中心に活動を続けています。

団体は、日本国内に約1,650人の構成員を擁し、15都道府県下31施設を有しているほか、ロシア連邦内において、約130人の構成員を擁しています(令和3年2月末時点)。

### オウム真理教の変遷の概要



## 2 現在の活動状況

### 主流派

#### -「<sup>アレフ</sup>Aleph」-

麻原らの死刑執行(平成30<2018>年7月)後も変わらず“麻原絶対”を明示しながら、麻原に対する帰依を深めるための活動などを行っています。

#### <麻原の肖像写真を施設内に掲示>

「Aleph」は、麻原らの死刑執行後も、施設内の祭壇などに麻原の肖像写真を掲示しており、施設の中には、祭壇に麻原が好きな果

物を供えているところもあります。



札幌白石施設(北海道)に対する立入検査  
(令和2年9月)で確認した祭壇  
※祭壇中央に麻原の写真, 右側に果物(すいかと柿)

### <現在も麻原への帰依を深めるための活動を実施>

「Aleph」は、現在も、麻原への帰依を深めるための活動に取り組んでいます。

- ◆ 団体が凶悪事件を引き起こした1980年代から90年代にかけて、団体施設内に設置していた祭壇と同様の祭壇を、現在も全国各地の団体施設内に設置。なお、麻原は、祭壇に設置している宗教画について、自身と同一視するよう指導。

そして、構成員らは、現在も、祭壇に向かって麻原への帰依を誓う文言を唱えるなどの活動を継続。



オウム真理教総本部の道場で修行する信者たち(平成元<1989年>12月, 写真:  
読売新聞/アフロ)



八潮大瀬施設(埼玉)に対する立入検査  
(令和2年9月)で確認した祭壇

◆ 「パーフェクト・サーヴェーション・イニシエーション」(PSI)と呼ばれる、“麻原の脳波データを注入する”とされる器具を使用



団体施設内の道場で、電極付きヘッドギアを着用して修行する構成員(平成7年7月, 写真:毎日新聞社/アフロ)



徳島施設(徳島)に対する立入検査(令和2年2月)で確認したPSIのヘッドギア

◆ 麻原の著書などに記載された麻原の発言を暗記



にしおぎ  
西荻施設(東京)に対する立入検査(令和2年7月)で確認した教本



西荻施設(東京)に対する立入検査(令和2年7月)で確認した麻原の著書など



札幌白石施設(北海道)に対する立入検査(令和2年9月)で確認した麻原の著書など

- ◆ 麻原が「奇跡的な聖水」と位置付けた、「<sup>かんろすい</sup>甘露水」と呼ばれ“高次元のエネルギーが満ち溢れた聖水”とされる水を飲用



八潮大瀬施設(埼玉)に対する立入検査(令和2年9月)で確認した「甘露水」のタンク

### <未成年者に対する指導を実施>

「Aleph」では、乳幼児や小中学生ら未成年者も、構成員である親とともに(又は1人で)、団体施設に多数出入りしており、麻原の発言を子供向けに仮名表記するなどした絵本を始めとする子供用教材を用いています。



札幌施設(北海道)に対する立入検査(令和2年9月)で確認した子供用教材



横浜施設(神奈川)に対する立入検査(令和2年12月)で確認した絵本

「Aleph」は、組織拡大に向け、団体名を隠しながら、若い世代を対象とする勧誘活動を活発に行ってきたところ、新型コロナウイルス感染症の感染拡大下にあっても、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)やビデオ通信システムなど非対面の方法を積極的に採用するなどして、引き続き勧誘活動に注力しています。

なお、令和2年(2020年)中は、約60人の新規入会者を獲得し、そのうち、7割近くを青年層(34歳以下)が占めています。

## <勧誘活動の流れ(概要)>

### 第1段階

構成員らが、主に**若い世代**を対象として、**団体名を隠しながら**接触

➡ 宗教やヨガなどに興味を持つ者(=勧誘対象者)を、**団体名を隠したヨガ教室や勉強会に勧誘**



書店での声掛け  
(右の二人が信徒)

### 第2段階

ヨガ教室などでは、構成員がヨガ理論などについて指導などを行いながら、勧誘対象者との**人間関係を構築**

### 第3段階

勧誘対象者の教団に対する抵抗感を低下させた上で、**団体名を明かして入会へと誘導**

勧誘活動の詳細は[こちら](#)

## —「山田らの集団」—

- 「山田らの集団」は、平成27(2015)年1月以降、「Aleph」と一定の距離を置いて活動を開始しました。
- 麻原らの死刑執行後も、「Aleph」と同様に、施設内に麻原の写

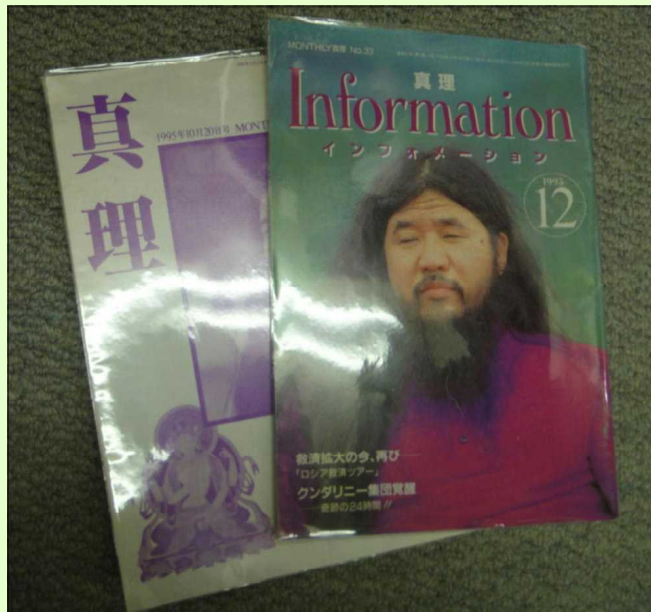
真や麻原が自身と同一視するよう述べた宗教画を掲示したり、麻原の発言を収載した教材等を用いた活動を行ったりするなど、引き続き麻原に対する絶対的帰依を示しています。



金沢施設(石川)に対する立入検査(令和2年6月)で確認した麻原の写真(左上枠内)及び「Aleph」と同様の祭壇(中央右)



金沢施設(石川)に対する立入検査(令和2年6月)で確認した麻原の著書等



金沢施設(石川)に対する立入検査  
(令和2年6月)で確認した団体刊行物

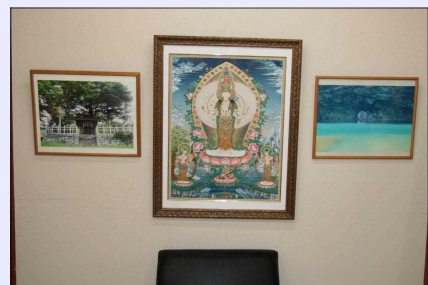
## 上祐派

### ー「ひかりの輪」ー

- 「ひかりの輪」は、平成19(2007)年5月、「Aleph」の前身組織である「宗教団体・アレフ」の代表などを務めた上祐史浩が、組織の存続を求めた麻原の意思(※)に従って設立した組織です。

※ 麻原は、地下鉄サリン事件後の平成7年5月、法務大臣が団体に対して破壊活動防止法の適用を検討する旨を表明したことを受けて、団体が存続できなくなる事態を危惧し、幹部構成員に対して、①団体の危険性を除去したように仮装すること、②組織を分割して、一方の組織の存続が困難となった場合にもう一方の組織がその受皿となれるよう準備することを指示。

- 「ひかりの輪」においては、麻原と関係があるとする仏画を施設内に掲示し続けているほか、年3回の「集中セミナー」(1月, 5月, 8月)などにおいて、麻原が行った活動の基礎的ないし本質的部分を維持したカリキュラムを実践しています。



小諸施設(長野)に対する立入検査  
(令和2年6月)で確認した仏画

さらに、「聖地巡り」と称し、かつて上祐派が、“麻原ゆかりの地”と独自に位置付けた神社などを繰り返し訪問しています。



「聖地巡り」(令和2年8月)における「儀式」